

かわ かみ
川の神
オロチさま



ます だ
益田の歴史発見!

なか ず ひがし はら い せき

中須東原遺跡



ますだくん みなとちゃん

フロローグ〜であい

ある日の久城公園

みなとちゃん

社会科の調べ学習 どうする？

私は室町時代の生活について
調べようと思っているの。

えーっ！

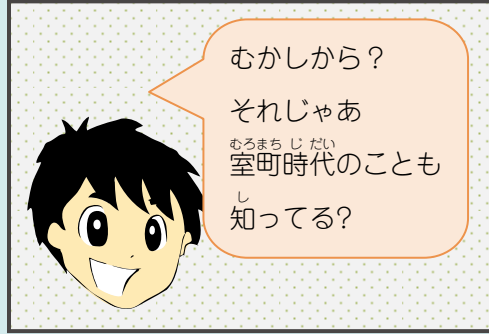
ぼくはまだ何も
決めてないよ。
どうしよう…。

気持ちよく眠って
おったのに
うるさいのう…。

うわっ！
びっくりした
だれ？

わしは川の神 オロチ。
むかしから益田川に住んでおる。





むかしから？
それじゃあ
むろまち じだい
室町時代のことも
知ってる？

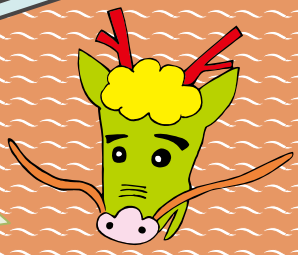


し
知っておるとも。
わしが740歳頃の
ことじゃ。



やった！ いろいろ教^{おし}えて
もらおうよ！

やれやれ
しかた
仕方ないのう…。



まだ れきし ちゅうせいへん 益田の歴史—中世編—

ちゅうせい ますだ れきし いわみ ちいき さいたい
中世の益田の歴史は、石見地域で最大
せいりよく ふ しだん ますだ し ふか
の勢力をもっていた武士団の益田氏と深
いかかわりがあります。

ますだ し へいあんじだい お ころ ます
益田氏は、平安時代の終わり頃から益
だ ちいき とち かいほつ ちから
田地域の土地を開発してだんだんと力を
つけていきます。せきが はら たが かいせん
関ヶ原の戦いで敗戦し、
ながとのくに げんざい やまくちけん うつ やく
長門国（現在の山口県）へ移るまでの約
ねんかん ますだ おさ
400年間、益田を治めました。

さっし しゅうかい なかす みなと さいしよ
この冊子で紹介する中須の湊は、最初
はお寺などの有力者によって造られ、湊
が最も栄えた室町時代頃から益田氏が經
えい かが かんが
営に関わったと考えられます。



せつしゅう か
雪舟が描いた
ますだ かねたか
益田兼堯
むろまち じだい
(室町時代)



むろまちじだい ますだ
室町時代の益田は

どのような様子だったん
ですか？

ちゆうせい よ じだい ころ ます
中世と呼ばれる時代じゃな。その頃の益
だ ますだし ぶし おき
田は益田氏という富士が治めていたんじ
や。益田氏は三宅御土居という館や、七
ますだし みやけおどい やかた なな
尾城を築いて、今の益田の町の基礎をつ
おじょう きず いま ますだ まち きそ
くったのじゃよ。



なな おじょう
七尾城のあった

なな お やま ちようじょう
七尾山は頂上まで
のぼ
登ったことがあるよ！



なかず おお みなと
それから、中須には大きな湊があっ
てのう。とてもにぎわっておったのじゃ。



オロチさま
くわしく教えてください。



なかず みなと
よし、中須の湊※の
ことを話して
やろうかのう。

※「中須の湊」の跡が「中須東原遺跡」です。

中須東原遺跡とは？

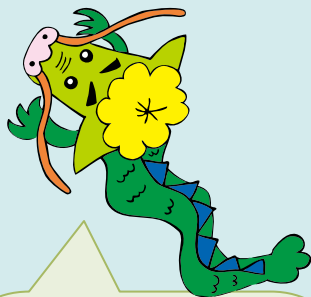


なか ず ひがし ほうらい せき ますだ がわ たか つ がわ あだ
中須東原遺跡は、**益田川**と**高津川**の間

ひろがる へい や はく ちゅう ぎょう ぎ
 に広がる平野にあります。発掘調査をし
 て地面の下の様子を調べてみると、中世
 の舟着場跡や、建物跡、鍛冶場跡など昔
 の町の跡が次々と見つかりました。

むかし まち あと とろり なか ず に し ほうらい せき
 昔の町の跡は、隣にある**中須西原遺跡**

まで続いていました。ここがひとつの大
 きな湊町だったことがわかります。



なか ず ひがし ほうらい せき
 中須東原遺跡では、
 みなとまち よう ず うつ が
 湊町の様子や移り変わり、
 こうえき しな じな が
 交易*された品々が
 よくわかるのじゃよ。

こうえき しな もの こう かん ばい ばい
 *交易 品物の交換や売買をすること

中世の中須湊



なか づ みなと ふなつき ば まち いっしょ で き
中須の湊は、舟着場と町が一緒になって出来ているんじゃ。

古益田湖

町を区画する道

あさ 浅くくぼんだ幅約2mの道路跡。
まち 町はこのような道路によって
区切られていました。



鍛冶場跡

なかとまち てつせいひん つく こうぼう
湊町には鉄製品を作る工房もありま
した。地面が赤く焼けた炉の跡や、
はぐち 羽口※などの道具もたくさん見つか
っています。※炉に送風する土製の管

舟着場跡

なみう ぎわ いし し
波打ち際に石が敷きつめ
られています。ここでは
なが やく はばやく
長さ約40m、幅約10mの
ふなつき ば ます
舟着場が築かれていました。



うわあ たてももの建物がたくさん！
とてもにぎわっているね。



日本海

砂丘 日本海の荒波によって丘がつくられ、波風から湊町を守っていました。

なかすにしはらいせき
中須西原遺跡

福王寺

なかすひがしはらいせき
中須東原遺跡

ほむけ あび
畑の跡

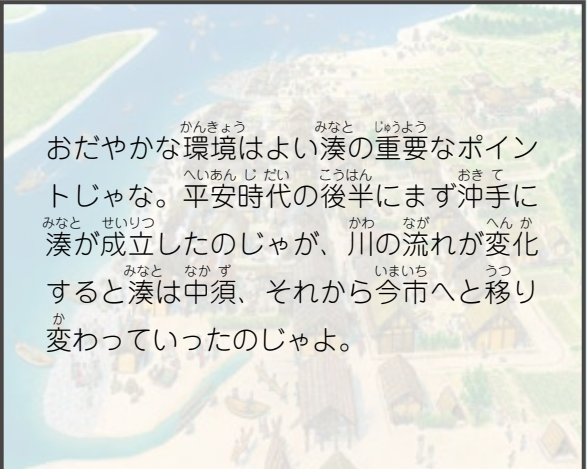
たてもものあと うらがわ はたけ うね
建物跡の裏側からは畑の畝の
あと はつげん
跡が発見されました。

たてもものあび
建物の跡

ひとびと せいかつ じゅうきょ ほんらな
人々が生活していた住居の柱穴
の跡が数多く見つかりました。



湊の立地と移り変わり



おたやかな環境はよい湊の重要なポイントじゃな。平安時代の後半にまず沖手に湊が成立したのじゃが、川の流が変化すると湊は中須、それから今市へと移り変わっていったのじゃよ。

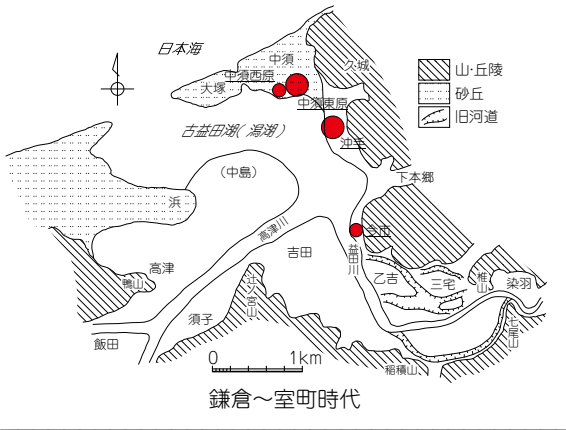
むろまちじだい ますだがわ たかつがわ
室町時代の益田川と高津川の
かこう うみ みずうみ
河口には、海とつながる湖や
しっちひろがっているのじゃ。
そして海から吹き寄せる風や
なみ さきゆう ふせ
波を砂丘が防いでいたのじゃ。

へえー。
そうなんだ。

益田平野を色わけしてみよう！



やま きゅうりょう
山・丘陵……みどり
さきゆう
砂丘……ちやいろ
こますだこ うみ かわ
古益田湖・海・川……あお



みなと はこ こ
湊へ運び込まれたもの

みなと
 湊にはどこからどんなもの
 はこ
 が運ばれていたのかな？



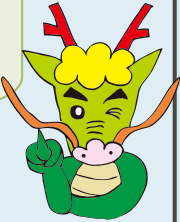
むろまち じだい がいようせん ふくげん もけい
 室町時代の外洋船（復元模型）
 まつだ しりつせつしよ ぎよと きねんかんしよぎふ
 （益田市立雪舟の郷記念館所蔵）



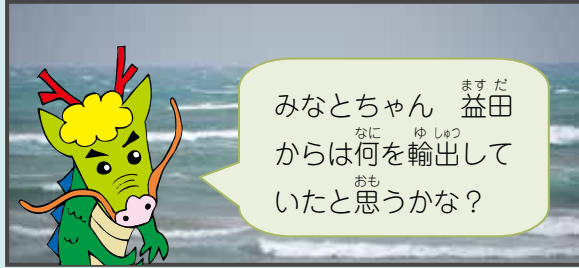
はくつちよう き しゅうひん
 発掘調査では商品だった
 しよつき どうせん まんてん
 食器や銅銭などが5万点
 いじょうみ
 以上見つかっているんじゃ。



にほん ほか ちゅうごく ちようせん
 日本の他に中国や朝鮮、
 とうなん しなじな
 東南アジアの品々が
 はこ
 運びこまれたのじゃ。



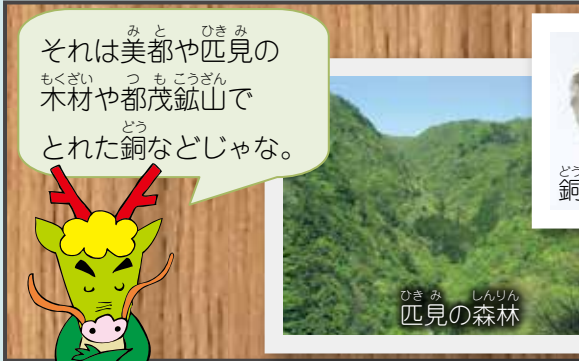
みなと はこ だ
湊から運び出されたもの



みなとちゃん ますだ 益田
 からは何を輸出して
 いたと思うかな？



こめ
 お米かな？
 それとも和紙
 かしら？



みと ひきみ
 それは美都や匹見の
もくざい つも こうざん
 木材や都茂鉱山で
どう
 とれた銅などじゃな。



どう こうせき
 銅の鉱石

そうなんだ！



とら がわ こん ぶ かず こ
虎皮と昆布・数の子

ますだし こうえき 益田氏は交易によって珍しい品々を手
 に入れることができました。その一つに
とら がわ 虎の皮があります。虎は朝鮮や中国に生

息しており、その皮は当時、武
かわ どうじ ぶ 具の材料などと
く ざいりょう して珍重されて
ちんちょう いました。藤兼

もとよしおや こ 元祥親子は、

て い とらがわ もうり もとなり おく
 手に入れた虎皮を毛利元就へ贈りました。
もとよし つま くら した とら がわ し
 た。元祥が馬の鞍の下に虎の皮を敷いて
しょうどう が のこ
 いる肖像画も残されています。

また、ますだし とお はな え ぞち げん
 益田氏は遠く離れた蝦夷地（現
ざい ほんかいどう 在の北海道）でとれる昆布や鮭、数の子
あずら しよくざい つか りょうり もうり し
 など珍しい食材を使った料理で毛利氏を
 もてなしています。

このように海を渡ってもたらされた貴重
しな じな な品々は、益田氏の政治的な力を高める
ますだし せいじてき ちから たか
 とともに、その経済を支えていました。

ますだ もとよしぞう しまね けんりついわみ びいのかんしやぞう
 益田元祥像（島根県立石見美術館所蔵）

ちゅうせい ぶん か かみ ます だ
中世文化の薫るまち益田

がいこく しょうひん はい
 外国の商品もどどん入って
 みなと ます だ
 くる湊が益田にあったなん
 て、おどろきました。



ほか ちゅうせい い せき ぶん か ざい のこ
 他にも中世の遺跡や文化財がまだまだ残っ
 ていてぞ。益田家に伝わった古文書*も残
 っているしの。日本全国を見ても中世文化
 がこれほど残っている地域は
 すく 少ないのじゃ！

こもんじょ せかし てがみ など
 ※古文書 昔の手紙など



ます だ まちじゅう れきし ぶん か
 益田は町中に歴史や文化が
 のこ 残っているんですね！

ほく もっと
 さが 探してみたい
 な！



うんうん



しら 調べてみればきっとわかるじゃろう。
 がんばるのじゃ！

オロチさま ありがとう！
 がっこう おし
 学校でみんなに教えて
 あげるよ！



益田の歴史年表

西 暦	時代呼称	日本のおもなできごと	益田のできごと
紀元前 1万年頃	旧石器時代	日本に人が住み始める 土器が出現する	匹見でナイフ形石器が使われる(新榎原遺跡)
	縄文時代	原始	匹見に大きな「むら」がつくられる(石ヶ坪遺跡) 匹見に大規模な「お墓」がつくられる(水田/上遺跡、イセ遺跡)
紀元前 300年頃	弥生時代	稲作が広まる 鉄器、青銅器が広まる 女王卑弥呼が魏に使いを送る	四塚山古墳に三角縁神獣鏡がおさめられる。
100年頃 300年頃		古墳が作られ始める 九州から東北まで国のまとまりができる	
400年頃	古墳時代	大元1号墳が築かれる スクモ塚古墳が築かれる	小丸山古墳が築かれる 縄の鼻古墳群、北長迫横穴群など群集墳が築かれる 柿本人麿が活躍する
500年頃 600年頃		聖徳太子が活躍する	
710年	飛鳥時代	都が奈良に移る	都茂郷丸山で銅山が発見される 仙道に粟島原遺跡、東仙道土居遺跡が、益田川河口の沖手に港町(沖手遺跡)が営まれはしめる 益田氏の祖御神本国兼が石見国府に着任する 御神本(益田)兼高が源平合戦で活躍し、石見国の武士のリーダーに任命される 中須に湊町(中須東原・西原遺跡)が営まれはしめる 御神本一族が益田氏・三隅氏・福屋氏・周布氏などに分かれる
794年	奈良時代	都が京都に移る	
881年	平安時代	白河上皇が院政を始める	
1184年	鎌倉時代	源平合戦	七尾城が三隅氏に攻撃される 益田兼見が益田地域を統一する 三宅御土居が築造される 益田兼見が萬福寺を創建する
1192年		源頼朝が征夷大將軍となる	
1274年 1281年 1333年	南北朝時代	一度目の元寇 二度目の元寇 鎌倉幕府滅亡	中須西原遺跡の 中国製陶器
1336年 1338年		室町幕府が成立する	
1374年 1392年	室町時代	南北朝が統一される	雪舟が益田兼堯に招かれ、萬福寺と医光寺(崇観寺)に庭園を築き、益田兼堯像を描く 雪舟が没する 益田宗兼が京都にのぼる 今市が成立する 益田藤兼が陶晴賢の謀叛に協力する 益田藤兼が毛利元就と仲直りする 益田藤兼・元祥親子が毛利元就のもとを訪れる
1467年 1483年頃		応仁の乱が起こる	
1506年 1508年	戦国時代	陶晴賢が大内義隆に謀叛を起こす 厳島の合戦で毛利元就が陶晴賢をやぶる	益田元祥が長門国須佐へ移る
1551年 1555年		毛利元就が大内氏を滅ぼす	
1557年 1568年 1573年	安土桃山時代	織田信長が室町幕府を滅亡させる 豊臣秀吉が全国を統一する	第二次長州戦争、石州口の戦い
1590年 1600年		関ヶ原の戦い	
1603年	江戸時代	江戸幕府が成立する	
1866年 1867年	明治・大正・昭和	大政奉還・王政復古の太号令	



中須西原遺跡の
中国製陶器